



見事な桜が参拝者を迎える十連寺

# 上尾歴史散歩

337



## ～文化遺産を訪ねて歩こう!!～

4月号から来年3月号までの上尾歴史散歩は、『あげお歴史探検マップ』をもとに、市内の文化遺産を訪ね歩く市内の散策コースを紹介します。4～6月は、大谷地区周辺のコースを巡ります。

4月  
5月  
6月  
7月  
8月  
9月

今に伝わる祈りの文化

荒川周辺に花開いた文化

人と文化が繋いだ町

街道に刻まれた歴史

距離	時間
JR上尾駅スタート	
0.25km ↓	3分
①谷津観音堂	
1.44km ↓	16分
②川の大じめ	
0.48km ↓	6分
③十連寺	

★時間は、歩いたときの目安の所要時間です



### 上尾駅の賑わいを抜け歴史を刻む人々の祈りをたどる

JR上尾駅西口からモンシェリー通りを抜け左に進むと、「谷津観音堂」①が見えてくる。堂内に安置される本尊の木彫十一面観音菩薩立像は、12年に一度、午の年に開帳される秘仏であり、次回の開帳は2026年である。制作年代は、約600年以上前に当たる南北朝時代までさかのぼるといわれている。

春日神社の近くには、「しよつかの婆さん」と呼ばれる奪衣婆の像を見ることが出来る。鴨川を越えて西へと進むと、右手に「川の大じめ」②と呼ばれる大きな注連縄が目に入ってくる。毎年5月15日に旧・川村の入口に当たるこの場所に建てられた2本の栗の木の支柱に太い注連縄が架けられる。疫病などの災いが村の中に入らないように祈願する「フセギ」と呼ばれる民俗行事である。現在では、市民体育館通りが目の前を横切っているが、かつては注連縄が架けられたこの入口が村に入る唯一の道だった。

見えてくる。山号は「干菜山」。この一風変わった山号は、徳川家康が鷹狩りで立ち寄った際に、菜が干されていたことから「ほしなさん」と即興で名付けたものとされる。十連寺には三代將軍徳川家光の朱印状や、殺生や竹木の乱伐などの禁止を記した禁札も伝えられている。禁札は慶安2(1649)年付で出されたもので、江戸時代初期のもので残されているのは珍しい。本堂など寺内の各所に見られる葵の御紋は、参拝者に徳川家との深い関わりを感じさせる。本堂の脇を通り抜けた墓地の一角には、家康に仕えた柴田七九郎父子の墓が佇んでいる。子の康長は寛永年間に大谷領3千石を与えられ、向山村に陣屋を構えていた。墓地内には板石塔婆(墓碑)や供養塔も存在し、市の文化財に指定されている板碑一点は、碑面に装飾性の強い線刻が良好な状態で残されている。これらは中・近世における周辺の村々の民衆の祈りを今に伝えている。

大じめを後にして市民体育館前交差点を北方に進み、双葉台幼稚園前の交差点を左折すると間もなく、「十連寺」③の山門が

次号では、西に進み上尾道路周辺の二つの愛宕神社へと歩いて行こう。(上尾市生涯学習課)